

市議会3月定例会行政報告



CCC大館校設置提案 調査の結果見送りに

市議会三月定例会が招集された三月四日、
畠山市長が行政報告をしました。その中か
ら、主なものの要旨をお伝えします。
なお、今定例会で審議された案件等につ
いては、次号でお知らせします。

CCC大館校設置 調査検討結果

コーストライン・コミュニテ
ィーカレッジ大館校の設置につ
いては、平成元年十月に株式会
社インターパシフィック・ジャ
パンから打診されて以来、市内
プロジェクトチームを設置す
るなどして積極的に調査、検
討してきました。昨年十月にそ
の報告書をまとめ、十二月議会
で報告しましたが、その後、双方
で学校経営上の中心となる部分
について第二次の調査、検討をし
てきたところです。第二次では、
①、地元企業の経営参加の動向
②、学生確保の動向
③、経営上の地元参加比率

の三つに焦点を絞りました。
①については、アンケート調
査の結果が厳しい内容であった
こと、市商工会議所を通じた見
通しでも、企業の経営参加は望
めない状況です。
②については、市内高校関係
者との協議の結果、ほとんど期
待がもてません。
③については、市は当初から
直接に経営参加しない方針を明
示してきましたが、相手側の要
望は市と企業で七〇％／八〇％
出資の第三セクター方式です。
①と考え合わせると、大変厳し
い内容です。

全国に進出している米国大学日
本校とは若干異なる教育機構で
したから、結果的に市民の皆さ
んの理解を得られなかったもの
と思います。
こうした状況を踏まえ、この提
案は見送ることに結論づけまし
た。しかし、今後も市のイメージ
アップや活性化に向け、高等教育
機関の設置については積極的に
取り組んでいきます。

湾岸(中東)戦争 市民生活緊急対策室

昨年八月二日、イラク軍がク
ウェートに侵攻し、一月十七
日、国連決議に基づく多国籍軍と、
イラク軍との間で戦争が始まり
ました。第二次大戦以来の壮絶
な戦争へと発展し、多くの犠牲
者と難民を出しましたが、二月
二十八日に多国籍軍が攻撃を停
止したことにより、ようやく終
結の方向にあるのはご承知のと
おりです。
中東地域に石油の七割を依存
している日本にとって、その供
給が脅かされることは、経済、国
民生活に大きな打撃となります。
この事態に対処するため、政府
は湾岸危機対策本部を、県は県
民生活安定対策連絡会議を設置
しました。非核平和宣言をして
いる本市も、この緊急事態に対
し、平和的解決を積極的に推進
し市民生活の安定を守るため、
一月十七日、「大館市湾岸(中東)
戦争市民生活緊急対策室」を設
置しました。具体的対応策は、
省エネルギーの強化、市民の苦
情相談窓口の設置、情報収集体
制の確立、関係業界・団体等と
の協議、平和運動の推進の五項
目です。

開戦以来四十三日間にわたつ
たこの戦争は、多くの人命の犠
牲だけでなく、地球環境や世界
良い戦争と悪い戦争があるで
しょうか。答はただ一つ「ない」。
この立場から、一月十七日に始
まった湾岸戦争に対して即時停戦
をアピールしてきました。停戦
の実現はこの上ない喜びです。
犠牲になられた方々にお見舞
い申し上げますとともに、改め
て恒久平和を誓い合い、復興に
向けて努力して頂きたいと思い
ます。そして私たちも、できる
限り支援していくことを表明い
たします。
湾岸戦争対応策として、市民
の皆さんと市職員へ省エネを中
心にいくつかの要請をしました。
自然保護や省エネは、何も戦争
が起ったからすることではな
く、日常的にしているべきこと
です。したがって、今湾岸戦争
が終わったからこの要請もなく
なるというものではありません。
ここに改めて、アメリカに追
随する日本ではなく、世界に向
かって恒久平和を唱え、自然を
大切に生活することを誓ってい
きましょう。

市長メモ



No.49

湾岸戦争と省エネ

畠山市長